

口吉川地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 令和6年9月18日(水)
午後7時30分～午後8時45分
- 2 場 所 口吉川町公民館 大会議室
- 3 参加者 口吉川地区 22人
市 21人(市長、副市長、副市長、教育長、総政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、議会事務局長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、秘書広報課長、環境政策課長、農地整備課長、生涯学習課長、学校教育課長、小中一貫教育推進室長)
オブザーバー 5人
傍聴者 1人

4 内 容

(1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり

(2) 意見交換

ア 三木バイオテック(株)三木堆肥化センターの悪臭問題について

【市民生活部長】

兵庫県より三木バイオテック(株)に対して、9月12日付で法に基づく改善指示の行政指導が行われた。この改善指示の履行期限は10月18日で、不履行時の事業停止についても言及している。長年の地域の尽力の結果、兵庫県を動かし行政指導に繋がった。市も引き続き課題解決に向けて兵庫県と連携を図っていきたい。

【口吉川地区】

長い間改善されず、悪臭に悩まされ、事業者に裏切られる思いもした。この度の兵庫県による行政指導は大変ありがたい。改善指示に基づく対策が実際に履行されることを願っている。

【口吉川地区】

兵庫県の行政指導の通知の写しをいただけるか。

【市民生活部長】

事業者向け文書なので兵庫県に確認する。

【口吉川地区】

詳しい指導内容を確認し、改善の進捗を見定めたいので、写しをもらえるとありがたい。事業者には抜本的な対応を期待する。指導内容を履行できているか、兵庫県は監視、指導してもらいたい。地域からも逐次情報を挙げるが、市にも監視をお願いしたい。

イ 防災・減災を見据えたため池の浚渫について

【口吉川地区】

防災ため池以外の小規模ため池の土木工事でも何百万円もかかるので困っている。土地改良の市補助金の改正で、補助率が下げられた。多面的機能支払交付金では足りない。それらのため池も灌漑機能はもちろん、減災にも繋がる。何らかの手助けがほしい。

【農地整備課長】

市の補助金について、単純に補助率を下げたわけではない。ほ場整備から40年が経過し、100万円ほどの修繕の要望が増えている。変更前は、工事額から40万円を引いた金額の4割補助で、例えば50万円の工事なら4万円の補助額である。変更後は、工事額50万円の3割で15万円の補助額となる。これは小規模工事の地元負担軽減を目指して改正した。

三木市は全国的に見ても多数のため池を有し、多くが小規模なものである。浚渫に係る費用は高額で、市の補助金だけでは難しい。これらに係る維持管理が困難だという実態を説明した上で、今後も国からの補助について粘り強く要望していきたい。

ウ 市の広報について

【教育振興部長】

口吉川地区の中学生は三木中学校へバスで安全に通学しており、有意義な学校生活を送っている。しかし、その情報

が伝わっておらず、地域の方が心配されていることが分かったので、今後も丁寧な広報に取り組んでいきたい。

【総合政策部長】

防犯について、三木警察と協力して毎月継続的に広報している。防災については防災組織の説明会や地区の防災訓練などの機会に、継続的に広報していく。広報みきは、新聞折込みでの配布や、希望者には個別配布をしている。市にとって大きな情報発信ツールであり、今後も見やすく分かりやすい広報の作成に努めていく。

【口吉川地区】

旧星陽中学校跡地は、閉校の横断幕をつけたまま、夏場は雑草が伸びている。横断幕は降ろし、広報で口吉川小学校、豊地小学校の取り組みなどをアピールしてほしい。

【教育振興部長】

閉校の横断幕は地域や保護者の代表者が作成したもので、3年間掲げることになっているが、意見があったことは伝える。広報については紙面の関係もあるが、伝えるための工夫を検討していく。

【口吉川地区】

阪神淡路大震災から30年が経ち、震災を体験していない市民も増えている。そこで地震に備え、自分の身を守ることにについて広報での特集記事として取り上げていただきたい。

【総合政策部長】

特集記事はカラー刷で紙面も大きく、視覚的に捉えやすい。防災の基本的な考え方は、自助、共助、公助という順となる。まずは、自分で身を守るための最低3日分の飲食物の備蓄や薬の持ち出しということは常々広報している。継続的な広報を行うとともに、特集記事についても検討する。

【市長】

特集記事は毎月、計画的に組んでおり、防災月間の9月は防災を特集している。また、市長が毎月FMみきに生放送出演し、それを市公式Youtubeにアップしている。9月放送は防災について詳しく話しているので見ていただきたい。

【口吉川地区】

文章を読まない人も増えているので、ホームページ、SNS、

広報紙など、様々な媒体を通し情報発信していただきたい。

エ 動物と触れ合うまちづくり

【口吉川地区】

小動物と触れ合うことで、引きこもりや不登校のケアになるのではないか。また、外から人を呼び込むため、自然が豊かで動物に触れ合えるということを発信してはどうか。吉川のブドウを街の人に紹介すると品質と価格に驚かれる。人口減少、高齢化は避けられないが、都市部に近い田舎、トカイナカのアピールに動物、果物を加えてはどうか。

高齢化が進む中、将来の買い物に不安を持っている人がたくさんいる。移動販売車コープこうべに固定客がついてきた。運行に感謝する。今後も様々な施策で三木を盛り上げてほしい。

【教育振興部長】

動物との触れ合いについて、現在、23校中7校でうさぎを飼育している。三木市のいいところを教育に取り入れることは、体験的な学習として、米作りや、ホースランドパークでの乗馬などが考えられる。今後も田んぼ体験など、周囲の環境を活かした体験をたくさん取り入れていきたい。

【市長】

小学生の乗馬体験は、全国広しと言えど、三木市だけではないかと思う。ブドウは山田錦の館で売り上げの多くを占めている。今後も三木市のいいところを様々な媒体でPRする必要がある。

また、トカイナカについて、移住先として県内で三木市は4位と神戸新聞に出ていたので報告しておく。

市としては、三木市で生まれ育った子どもが、三木に帰ってきたい、三木で教育を受けさせたいと思う環境をつくっていくことが重要だと考えている。